

来年度から石狩市

市民と「協働」事業を実施

町づくりアイデア募る

【石狩】市は来年度、市民からの提案に基づいて市と市民で事業を実施する協働事業提案制度を始める。これまで行政主導で進められていたまちづくりを、市民にも担ってもらうことで、官民連携の市政運営を行うのが狙い。八月二十五日から提案を受け付ける。

(郡義之)

市は協働事業として「算額の枠については設けない。提案者は、石狩市内で何らかの活動をした加工食品の開発」を「ボランティア」など、法人格の有無は問わない。提案者は、市が今年四月、官民集に開く説明会を市が協力し合ってまちづくりを進めることなど、せは市協働推進・市民課を盛り込んだ「自治基の声を聴く課」72・3153へ。

八月十一日には、募

来月25日
受付開始
12月に最終審査

路線短縮か赤字補てん

札幌線 中央バス、市に要求

【石狩】市は二十三行している路線バス「札幌線」について、赤字を理由に早ければ来年四月にも路線短縮を求めていることを明らかにした。

に伴い、具体的な施策として、今回の制度を設けた。

札幌線は現在、札幌ターミナルと市内浜益区幌地区を一日一往復している。中央バスによると、乗客数は浜益で、平日が平均四九二人、土日祝日が平均三二・二人。このうち、浜益区内の利用が全体の15%前後(五十七人)にとどまっている。収支は年間約四百万一六百万円の赤字で、同社は現在の路線を札幌―厚田間に短縮するか、路線維持の場合には、市に赤字分を補てんするよう求めている。また、近く浜益区内で住民説明会を開催して市民の意見を聞く考え。これに対して市は、路線の維持を同社に求めているが、バス利用者が年々減少していることもあり、委員会で「事態打開は難しい」との意見を示した。八月に聞き取り調査を行ったとともに、今後、中央バスや地域住民と路線維持の方策を話し合うことになっている。

(郡義之)